

# 県内ジュエリー関係組合合併へ

山梨県水晶宝飾連合会(会長 近藤誠)は、平成19年7月に「四組合統合委員会」を設置し、傘下4協同組合の合併に向けた協議を重ね、本年12月1日に2組合が合併する。

同連合会は、ジュエリーの流通業者を中心とする「協同組合山梨県ジュエリー協会」、宝石の研磨・加工業者で組織する「山梨県宝石研磨工業協同組合」、貴金属類の製造業者による「山梨県貴金属工芸協同組合」及び水晶等の貴石細工業者の「山梨県水晶美術彫刻協同組合」の4組合で構成されている。連合会は、各組合がそれぞれに共同事業を実施する中で、大宝飾展等の広報活動、Kooifu(産地ブランド)の推進・販売事業等、業界共通の事業の実施や業界内及び外部の関係機関との連絡・調整等を行い、業界の発展を目指してきた。

山梨は、世界有数のジュエリー産地として、ピーク時の製造品出荷額は1千億円を超えるまでに成長した。しかし、バブル崩壊以降は生産額の減少が続き、現在はピーク時の3分の1以下にまで落ち込む厳しい経営環境にある。このような状況から、各組合ともに休廃業等による組合員及び従業者数の減少により、組合事業の継続と技術の承継が困難となり、産地存続への危機感が今回の4組合の統合の背景となった。

そこで、連合会では、「国内最大のジュエリー宝飾産業を後継者に残すために一緒にやろう」を目標に、四組合統合委員会が中心となり、傘下会員組合の組合員からの意見聴取と説明を行ってきた。その結果、協同組合山梨県ジュエリー協会及び山梨県宝石研磨工業協同組合の2組合が合併することとなった。また、山梨県貴金属工芸協同組合は解散することとなり、組合員

は合併組合へそれぞれ加入手続きを行う。山梨県水晶美術彫刻協同組合は存続しつつ合併組合への加入希望組合員が個別に加入を行うこととなった。

今後は、合併を機に事業の再編と拡大を図り、後継者・技術者の育成を行い、産地の活性化を目指すこととしている。

